



行政自治会だより

令和4年2月1日発行

第31号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 塚田 長剛

新年のごあいさつ



古河市行政自治会

会長 塚田 長剛

令和4年、新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかに新春をお迎えのこと、心よりお慶び申し上げます。

一昨年から続く新型コロナ感染状況は8月をピークに減少傾向にあり10月より緊急事態宣言も解除されました。なぜ急激に感染者が減少したかは、専門家のあいだでも意見が別れています。感染防止対策が徹底してきたこと、ワクチンの接種が進みその効果が現れてきたことも一因ではないかと思われています。しかし公共交通機関や飲食店を取り巻く経営環境は厳しいものがあります。

私も10月下旬に鎌倉を旅しました。人出はかなり有りましたが、高速道路で観光バスをほとんど見かけませんでした。感染者数はいったん落ち着きを見せたかのように思えましたが、新たな変異株により再び感染拡大が懸念されています。国内ではさらなる感染拡大に対処しようと各種対策を考えており、古河市においても3回目のワクチン接種が進められています。

さて我々の行政自治会の行事等も後半においても相次いで中止となりました。今年も行政自治会活動は感染対策をしっかり行い安全最優先に、「コロナにかからない、コロナをうつさない」を基本に会員皆様の一層の御協力をお願いいたします。

結びになりますが、コロナに負けない新しい年を迎え、皆様にとって良い年になりますよう、心よりお祈り申し上げまして新年のごあいさつといたします。

市長と語ろうまちづくり

11月1日（月）19時よりスペースU古河において、令和3年度市長と語ろうまちづくりの第1回目が行われました。参加者は第1地区、第2地区、第4地区、第7地区から60名。前半は市長より古河市の現状についての説明があり、良いものは磨き、足りないものは補うという方針が出されました。その後、市民から以下の意見が出されました。

- 歴史と文化を重んじるまちづくりをして欲しい
- 駅までの交通網の整備を良くして駅、駅前の利用を促進し発展させるまちづくり
- 文化、歴史施設の街中の案内板の整備をして欲しい

- 博物館や文化施設の増設によるまちづくり
 - 魅力のある所に人は集まる。特に、教育水準の向上は大きな課題のひとつで、施設を含めて魅力あるまちづくりをして欲しい
 - 市内の狭い道路状況の改善、渋滞緩和をして欲しい
 - 生活環境を向上させ、他地区に出なくても済むような施設を含めた魅力的なまちづくりをして欲しい
- これに対し、市長からは、出された意見を参考に魅力あるまちづくりに邁進したいとの強い言葉がありました。（広報委員 文：鶴見尚司、写真：廣瀬健二）



市長からテーマについての説明の様子



市民との意見交換の様子

見守り活動

古河第七小学校は、古河市内最大規模の児童数を誇り、児童の通学に合わせて、まちの1日が始まるかのようです。東西南北の通学路は、危険な箇所が12か所にも及びその安全は第7地区の自治会、老人会、父母の会等の人々による見守り活動で守られています。毎朝、立哨する30名と児童が交わす「おはようございます」は、まちの始動合図です。
(広報委員 廣瀬健二)



立哨するけやき平・あけぼの台自治会のみなさん

防犯診断パトロール

緑町自治会では、毎年7月と12月に古河警察署と古河市交通防犯課の協力を得て自治会内を一周する防犯診断パトロールを実施しています。

この事業は各住宅が、いかに防犯に心がけているかを診断するもので、家の鍵のかけ忘れが無いか、泥棒に隙を見せるようなことが無いか等をチェックしながら巡回します。新型コロナウイルス感染症が蔓延している昨今ですが、「防犯と防災に休みなし」の掛け声とともに、密を避けソーシャルディスタンスを保ちながらの巡回となりました。

この行事は、昭和61年12月26日に第1回が開催され、休むことなく30数年も続いております。

(広報委員 小川久雄)



防犯診断パトロールの様子

防災出前講座



講座風景 横山講師

緑町自治会では、毎年9月1日の防災の日を目途に防災訓練を行っています。今年度はコロナ対策を万全に期し、古河市消防防災課による「出前講座」を開催しました。ハザードマップの理解や速やかに避難出来るようマイタイムラインの作成を行いました。40名が参加し、災害に対する関心の深さがよく分かりました。

以前のハザードマップでは緑町付近は0.5m程度であった水深が今回のハザードマップでは3mにまで達することによって、避難の方法や心構えが変わることを認識しました。参加者からは、今後災害に対して危機感を持って生活していきたい等の声が聞かれ、大変有意義な時間となりました。

(広報委員 小川久雄)

ラジオ体操と健康管理



雷電二丁目自治会館前でラジオ体操をする様子

平成22年3月から雷電二丁目自治会館でラジオ体操を始め、今年で12年目を迎えました。毎日決められた時間に起きて、体を動かす機会を作り、健康維持が出来ればよいかと、仲間たちの固い意思で続いています。昨年度より新型コロナウイルス感染症の為、心が湿りがちの中、体を動かす他に交流の場ともなり、心身に及ぼす良い影響もあると信じています。女性陣は40分から1時間ほどの散歩の後、ラジオ体操に参加している方も多く、感心させられます。今年は平均年齢80歳で、毎日約20名前後で行っています。高齢者の健康管理及び増進の一助になればと願っています。他自治会の方も、ぜひ散歩がてら参加してみたいはかがでしょうか？

(雷電二丁目自治会 鈴木能光さん)

ここに住んで本当によかった!

私が古河市を最終の地に選んだのは、結婚して8年目、昭和60年3月、35歳の時です。それまでは、埼玉県内に親子3人のアパート住まいでしたが、安住の地を求めて近隣市町を約1年探し回り、住宅環境、住宅価格等総合的評価から現在の地に決めました。

住み始めて、すぐに行政区に加入しました。地域の方々が大変親切だったので、親睦を深めることで、良好な人間関係を築くことができました。また、地域の幼稚園や小学校の交通安全活動のほか、学校以外の活動で、子供会やお祭りなどのイベントも大変楽しかったことを思い出します。ここに住んで本当によかったと思います。

あれから、35年が過ぎ子供も独立し、行政区役員も経験し、今は健康づくりに励んでいます。そして、行政の手の届かない高齢者のケアを行う意味では、やはり住みやすいまちづくりには行政区、自治会が必要といえるのではないのでしょうか。

(第9地区在住 匿名)



実りの秋に感謝(香取神社秋の例大祭)

今回は、上片田地区の鎮守様である香取神社秋の例大祭の様子を取材しました。この香取神社は、元禄年間から約300年にわたりこの地区の守り神として継承されてきました。例年この時期、その年の実りに感謝するとともに、地域の安全と発展を祈念して例大祭が実施されます。今年はコロナ禍の影響で参加者を氏子及び世話人等に限定し実施されました。

(広報委員 梅津信男)



香取神社



例大祭の様子

市内歴史散歩（第27回）古河城主初代 小笠原秀政と隆岩寺

小笠原秀政は、天正18年（1590年）秋、信州松本から3万石で古河に入部した。当時の徳川家康の所領250万石ほどであり、10万石が4氏、4万石が2氏、3万石が6氏、2万石が9氏、1万石が21氏で、秀政の3万石は大知行取りの部類であったのである。秀政は、家康の信頼に応えられる一騎当千の士であった。彼の妻は家康の長男で非業の最期をとげた松平信康（岡崎三郎）の娘である。

秀政の古河統治は10年5ヶ月にもおよんだが、後北条氏滅亡後の古河地方の新時代への偉業は、古河城修復拡張と藩政の確立、兵農分離、検地による村切りや城下町発展整備など、すべてこの若い武将秀政とその家臣団、そして古河に住んで常にこれを後見した父貞慶によってなされた。慶長5年（1600年）関ヶ原合戦に秀政は参加しなかった。結城秀康に属して、宇都宮で会津上杉氏・水戸佐竹氏に対する抑え役となったが、奥州街道古河の城主としての任務から、当然のことであった。元和元年（1615年）大坂夏の陣に、秀政は息子2人を連れて参戦し5月天王寺口の戦いで、長男忠脩とともに討死にする。名跡は二男忠貞が継ぎ、明石10万石、さらに小倉15万石と転封した。

秀政が古河地方に残したものに、元栗橋（五霞町）と古河にある二つの隆岩寺（浄土宗）がある。古河では、親しみを込め昔から田町の隆岩寺と言われてきた。田町という土地柄は低地であるが、寺は一段高台地にあり市街地でありながら、境内には、本堂・呑龍様、大衆の樹木もある。隣の福寿稲荷と共に正定寺に続く静かな環境に恵まれ、周辺の町々など昔の城下町が偲ばれる。隆岩寺は秀政の妻の父松平信康の法号である「潮雲院殿隆岩長越大禅定門」菩提の建立に因んで、文禄4年（1595年）岷道上人の開山、開祖は古河城主秀政である。墓所には、信康の供養塔、秀政の父貞慶の墓石（一部）がある。貞慶の墓石は、寛政5年石町元正麟寺山から出土したものを移したものである（市指定文化財史跡小笠原墓地）。また、山雀塚と呼ばれる異形の墓もある。

正麟寺（曹洞宗）は、会津で死んだ父長時（法号正麟寺殿）のため貞慶が建てた寺で、貞慶が古河で没する（文禄4年、50歳）とその法号大隆寺殿によって大隆寺と改称したが、ほどなく旧に復し現在地で正麟寺となっている。

（北新町自治会 田嶋幸男）



隆岩寺(古河市中心中央町)



隆岩寺所蔵「釈迦涅槃大曼荼羅」
(古河市指定文化財)

編集後記 今年は「寅年」です。中国伝来の十二支は、もともと植物が循環する様子を表しており、その年の特徴につながるといわれています。寅は、十二支の3番目で、子年に新しい命が種の中で芽生え始め、丑年には種の中で育つがまだ伸びることができない。寅年は春が来て根や茎が生じて成長する時期、草木が伸び始める状態だとされています。2年続きのコロナ禍ですが、今年は寅年の特徴どおり飛躍の年にしたいものです。

（広報委員長 長濱 忍）

行政自治会広報委員会

委員長	長濱 忍
委員	鶴見 尚司 小川 久雄
	廣瀬 健二 筋内 忠喜
	鴨田 朋之 塚田 邦幸
	梅津 信男 日毛 進一